

# 残念な恥ずべき落書き

今回は、少しだけ内容を変更してお送りします。非常に残念なお知らせですが、下野市民の宝で、国指定史跡下野薬師寺跡のシンボルとも言うべき復元回廊に黒色のマジックで落書きがされてしまいました。落書きの内容は、二名の個人名と日付でした。目的はわかりませんが、日付から判断するとゴールデンウィークに史跡を訪れた際に書いたようです。書かれた場所は、回廊の北東隅外側の腰長押と呼ばれる部材で、朱色に塗られている場所でした。実は落書きは今回が二度目です。前回は今回も記録として保存し、その後には消しました。しかし、一度汚された箇所はきれいには消えず痕が残ります。

一度目の落書きは二年ほど前に、やはり類似する場所に書かれました。偶然かもしれませんが、二回とも使用したマジックの種類や書き方・内容が非常に似ているようです。

文化財担当者は、古代の遺跡から出土する文字資料などを分類し、比較することも仕事としてしています。下野国分寺跡からは、焼成前の瓦にヘラのような道具を用いて文字を記したものが、約三千点出土しています。文字の内容は、古代下野国内の郡や郷の名称が大半です。現在の足利市内に位置する梁田の「田」などは、筆跡や文字の大きさなどの特徴から六種類に分類することができま。塩谷郡(當時は塩屋)の「塩」も四種類に分類すること

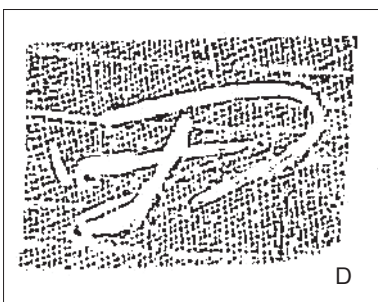
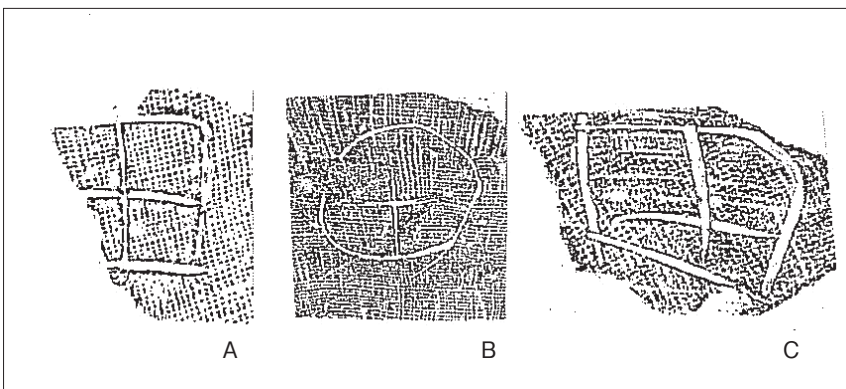
ができ、一つの種類を一人の書き手の癖とするところから書いた人数がわかります。また、記入する部位もそれぞれ個人差が顕著に現れます。調査として作業するのならいいのですが、文化財への落書きを比較・分類する作業ほど残念で無駄な仕事はありません。特に今回は、東日本大震災の被災修理のため、平成二四年度に国庫補助事業として白壁を修理し柱などの部材の朱色を塗り直した後で、今後、十年は修理をしなくて済むと考えていたため、非常に残念でなりません。この朱色も科学塗料でなく日光東照宮などの二社一寺にも使われている古代からの技法によるもので、特に手間と費用がかかっています。このような残念な行為が無ければ、その分だけほかの作業を進めることができます。

近年、日本だけでなく世界遺産への落書き被害が多いと繰り返し報道がされています。日本を代表する富士山の神社や姫路城など有名な城郭、奈良の寺々などが被害にあっています。古代からの文化財や自然遺産は一度壊したら元には戻りません。人間がつくり出した文化財は、長年の風雪に耐え、私達の先祖が長い間大切に保護し伝承してくれた宝です。このような貴重な文化財をこれだけ文化と文明の発達した中で生活をしている現代人が、わざわざ傷をつける悪戯は許し難い恥ずべき行為です。



下野市教育委員会 文化課

奈良時代、平城宮や下野国府、下野薬師寺・下野国分寺のような公共施設の白い築地塀などに落書きなどをしたら「あつ」という間に衛士(護衛兵士)に身柄を拘束され、朱雀門など大勢の人が集まる広場で、衆目の面前で鞭打ちの刑にされたことでしょう。



下野国分寺金堂跡出土ヘラ書き「田」6種類のうちの4種類です。書き方に特徴があることがわかります。